

CLOSET SYSTEM

wallzet NOEL3

クロゼット システム **ウォールゼットノエル3**

取扱説明書

必ずお読みください

NANKAI
NANKAI PLYWOOD

南海プライウッド株式会社

本社 〒760-0067 香川県高松市松福町1-15-10

首都圏営業グループ 首都圏 第1・2・3チーム TEL(087)825-3621 FAX(087)825-3645

東日本営業グループ 北海道・東北営業チーム TEL(087)825-3632 FAX(087)825-3695
 関東甲信越営業チーム TEL(087)806-3660 FAX(087)825-3645
 中部営業チーム TEL(087)825-3622 FAX(087)825-3646

西日本営業グループ 近畿営業チーム TEL(087)825-3623 FAX(087)825-3647
 中四国営業チーム TEL(087)825-3624 FAX(087)825-3648
 九州営業チーム TEL(087)825-3625 FAX(087)825-3649

特需営業グループ 特需 第1・2・3チーム TEL(087)825-3662 FAX(087)825-3669

■ご使用になる前に必ずこの「取扱説明書」をご一読いただきますよう、お願いいたします。間違った取り扱いを行いますと製品の品質劣化や損傷につながる可能性があります。本書に従わず取り扱いを行った場合については、当社での保証は致しかねますのでご注意ください。

■お読みになったあとは、大切に保管し必要な時にお読みください。

警告表示の種類と内容

人身事故や財産の損害を未然に防止するために、製品の取り扱いについて次のような警告表示をしています。内容を、ご理解の上、正しく安全にお使いください。

誤った取り扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次レベルで説明しています。

<h2 style="margin: 0;">注意</h2>	<p>この表示を無視して誤った取り扱いを行なうと使用者などが傷害(※1)を負うことが想定されるか、物的損害(※2)の発生が想定される危害・損害の程度を示す。</p> <p>(※1)傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、ケガなどをさす。 (※2)物的傷害とは、家屋・家財に関わる拡大損害をさす。</p>		<p>「してはいけない」を示します。</p>
			<p>「必ず行なっていただくこと」を示します。</p>

注意

	<p>● 製品の上には乗らない。</p> <p>棚板の落下などにより、けが・死亡事故につながるおそれがあります。</p>
	<p>● ハンガーパイプやフックハンガーにぶらさがらない。</p> <p>ハンガーパイプが破損したり、落下してけがをするおそれがあります。</p>
	<p>● 耐荷重の目安を必ず守る。</p> <p>棚板やハンガーに過度の重量物を置いたりすると、たわみ、変形が起こり、場合によっては落下してケガをするおそれがあります。</p> <p>(下記「耐荷重の目安値」をご参照ください。)</p>

耐荷重の目安

数値は目安値であり、品質保証値ではありません。

部材名	間口	荷重範囲
棚板	900mm以内	20kg以内
フリーカット棚板	最大1300mm	20kg以内 必ず固定してご使用ください。
天板	1300mm以内	30kg以内
ハンガーパイプ	1300mm以内	30kg以内 フックハンガーありの場合20kg以内
フックハンガー	1000mm以内	10kg以内
スライドハンガー	—	5kg以内
フレーム引出し	450・600・800mm	10kg以内 (引出し1段あたり)
ボックス引出し	600・800mm	10kg以内 (引出し1段あたり)
スラックスハンガー シャツトレイ ギャラリケース	600・800mm	5kg以内 (1段あたり)
和盆	1000mm	5kg以内 (引出し1段あたり)
バスケット	450mm	5kg以内 (バスケット1段あたり)

ご使用上のお願い

	<p>● 製品に水をかけない。</p> <p>本製品に直接水をかけないようにしてください。表面化粧のはがれや反りの原因となります。</p>
	<p>● 粘着テープ(養生テープ・セロハンテープ・シール等)は貼らない。</p> <p>表面に粘着跡が残るおそれがあります。</p>

お手入れ

	<p>● 日常のお手入れ方法</p> <p>乾いた柔らかい布で乾拭きする。</p> <p>● 汚れがひどい場合</p> <p>中性洗剤を水で薄めたものを布にしみ込ませ、強く絞って拭き取り、良く乾燥させる。</p>
	<p>● 換気をする。</p> <p>収納内部には湿気がこもりがちです。結露やカビの発生原因となりますので、時々内部の収納物を出して、充分な換気を行なってください。</p>
	<p>● 油やインクに注意する。</p> <p>水・油・インク・薬品などが付着した場合はすぐに拭き取ってください。放置するとシミや変色の原因となります。</p>

棚板(固定・可動)の移動・取り付け

棚板は樹脂金具にて取り付けしている箇所(固定)と、可動棚受金具にて取り付けしている箇所(可動)があります。下記を参照にして移動・取り付けを行ってください。

棚板(固定)の場合

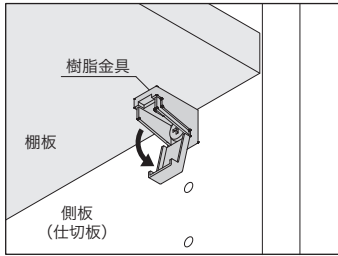
【棚板の取り外し】

【樹脂金具取り付け箇所】

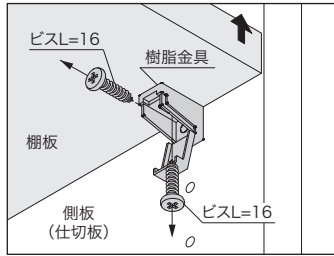
D3・D4：前後2箇所×左右
D6：前後中央3箇所×左右



①現在取り付けしている棚板下部の樹脂金具のキャップをあげてください。



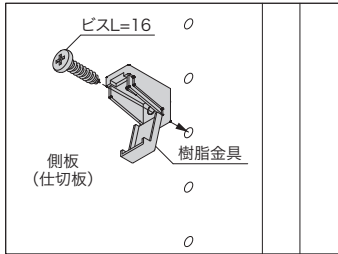
②バンドビスL=16をプラスドライバーで左に回し、棚板を取り外してください。



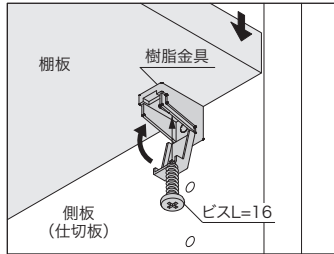
注意 棚板の落下にご注意ください。

【棚板の取り付け】

①棚板を取り付ける位置のダボ穴にバンドビスL=16で樹脂金具を側板(仕切板)と固定してください。



②バンドビスL=16で樹脂金具を棚板と固定した後、樹脂金具のキャップをします。

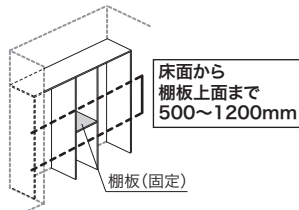


注意

- 取り付けのダボ穴の位置が同じ高さになるようにご確認ください。
- 樹脂金具は片方の穴が楕円になっています。側板・仕切板には必ず樹脂金具の正円の穴が当たるように固定してください。
- バンドビスL=16の締め過ぎにご注意ください。ビスが空回りすると、保持力が無くなり収納の強度を保てなくなる可能性があります。

注意

棚板を設置する場合、棚板(可動)のみの構成は不可能です。必ず1箇所、中央の棚板を固定してください。床面から棚板上面まで500~1200mmの間に必ず1箇所、棚板(固定)を設置してください。お守りいただけない場合、収納全体の寸法精度及び強度が保てない可能性があります。



棚板(可動)の場合

【棚板の取り外し】

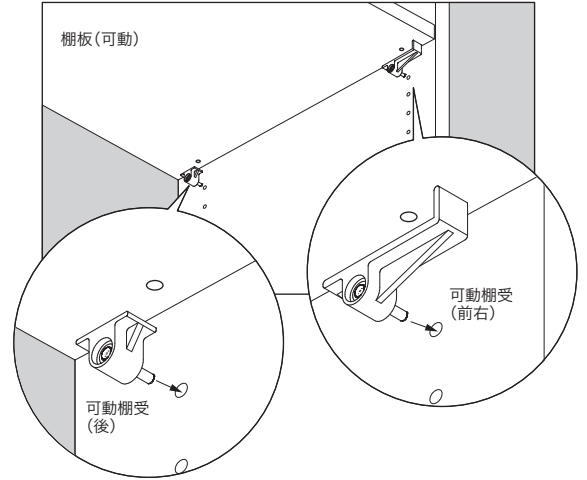
棚板を上を持ち上げて取り外した後、前後の可動棚受金具を取り外してください。

【棚板の取り付け】

可動棚受をダボ穴に差し込み、可動棚板をのせてください。

【可動棚受金具取り付け箇所】

D3・D4：前後2箇所×左右
D6：前後中央3箇所×左右

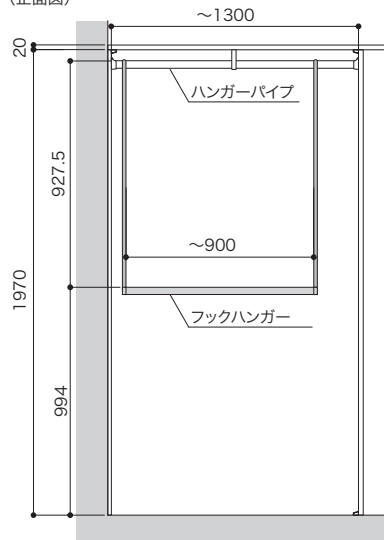


注意

- 使用するダボ穴の位置が同じ高さになるようにご確認ください。
- 可動棚受前用には前右・前左があり、形状が異なりますので取り付け時ご注意ください。

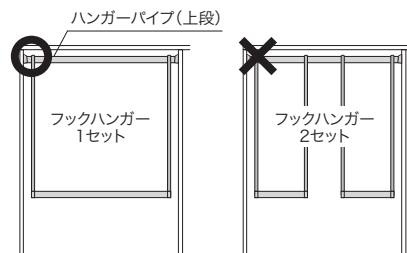
フックハンガーの設置位置について

(正面図)



注意

- 上段のハンガーパイプ1本に対して1セットのフックハンガーを設置してください。2セット以上を設置すると強度を保てない可能性があります。



- 幅が狭いフックハンガーの場合、上段のハンガーパイプの端に設置してください。中央に設置すると上段のハンガーパイプがたわむおそれがあります。

